

2024年5月13日

JR東日本クロスステーション労働組合
執行委員長 平野 智也

組合員のみなさんへ

私たちは2024年度賃金改善及び夏季一時金等に関する団体交渉について、本日5月13日に開催した第4回団体交渉にて妥結（交渉を終わり）としました。

交渉の進め方についての周知が徹底できないなかで、交渉を終える判断をさせていただいたことに対してお詫びいたします。

どのような考えで妥結としたのか、あらためてお伝えさせていただきます。

私たちは、第3回団体交渉において、会社に最後の検討として、世の中の変化への対応として、また働く私たちの想いを受け止め、会社の今後の成長に繋げるためにも、「賃金改善の定額部分の増」「夏季一時金の支給月数の増」「Fスタッフ（エルダー）の精勤手当の特別加算」を求めていましたが、第4回団体交渉でも、会社の回答は変わることはありませんでした。また、会社は、これまでの交渉経過を踏まえての、最終的な結論であるとしていました。

私たちとしては、世の中の変化への対応や会社業績の適正な還元、さらには人への投資について、会社が思っていることと、働く私たちが思っていることに大きな乖離があると感じていることを伝えたくて、交渉での主張は、もちろん回答に対して再検討を求めていることが主眼ではあるものの、交渉はそれだけではなく、会社の考えや想いを明らかにすること、一方の働いている人が感じていることを共有すること、そのことで会社がより成長できるようにしていくための場でもあると考えていると伝えました。

そのうえで、この交渉での会社発言からは、会社が本当に従業員のことをどう思っているのかということが感じられない内容となっており、組合主張を正面から受け止めて会社の考えを述べていると感じられない内容であることを伝えていきます。また、会社の考えが伝わらないことは、今後の会社の成長のネックになりかねないと伝え、よりわかりやすく本音で会社の考えを示すことを求めました。

そして、私たちとしては、これまでの交渉において、会社に伝えたいことを伝えており、新たな主張点がないなかで、また、会社としてこれ以上検討することができないという考えが示されているなかで、このまま引き続き交渉を続けても、いたずらに時間をかけるだけになってしまうと考えました。

このことから、第2回団体交渉で示された回答は、納得できる回答ではないことを伝えたく、今後に向けて、生活のベースとなる賃金や一時金が、引き続き伸びていくことが必要だと思っていること、また、世の中の動きへの対応はますます必要になるとも思っていることを伝え、効率化による生産性の向上だけではなく、成長にともなう利益の向上分も原資として考え、成長にむけた人への投資の配分を高めることを求めました。また、プラスのスパイラルの一つである「人への投資」として、労働条件改善だけではなく、福利厚生や働き方改革などを実践し、そのことを従業員が実感できることによってスパイラルは回ると考えることから、それらを意識した経営をおこなうことを求め、今交渉を妥結としました。

以上が、第4回団体交渉の経過となります。

今後、あらためて、職場集会の開催や職場巡回等を通じて、決定した回答内容だけでなく、要求作成の段階から交渉での議論経過、交渉の進め方等について、お伝えさせていただきます。そのなかで、今交渉に対する総合的な意見だけでなく、今後の会社との協議・交渉にむけての意見もいただければと考えています。

最後に、今後も続いていく会社との協議・交渉をより実のあるものにするためには、労使の関係性をより深めることが必要であり、そのためには組合員のみなさんの声は欠かせないと考えています。

会社だけでなく、私たちに対する批判の声はもちろん受け止めますが、それだけではなく、もっとこういうことを言ってほしい、こういうことがあるなどの声をいただけたら幸いです。私はそのことが、会社を変えることにつながっていくと考えています。

働く私たちにとって、より良い会社・職場とするためにも、みなさん一人ひとりが声をあげていただければと思います。そのことが、みなさんを代表して交渉をおこなう私たちの力になります。ぜひみなさん自身のためにも、声をあげてください。何卒よろしく願いいたします。